

平成 24 年 10 月 15 日



おりおりの記

ロンドンオリンピック勝利の価値観

公益財団法人 日本オリンピック委員会 副会長
財団法人 日本レスリング協会 会長

福田 富昭

今大会は、1912年に日本が初めてオリンピック大会というものに参加（ストックホルム）してから、ちょうど百年目の、記念すべきオリンピック参加となりました。

また、ロンドンでの開催は、1948年以来64年振りです。当時、日本は第二次世界大戦に敗戦した直後であったため、参加資格が与えられませんでした。そして2012年7月27日、第三十回ロンドンオリンピック大会の開会の火蓋が切られました。

当初、日本選手団は金メダル獲得目標を15個と設定していたのですが、なかなか思うようにはいかず、苦しんでいる内に早くも大会は後半戦を迎えてしまいました。オリンピックももう終りに近づいたというのに日本選手団の獲った金メダル数はわずか2個でしかなかったのです。期待の流れは、おのずから後半に競技日程が組まれていたレスリング陣の活躍へと集まることとなりました。

期待、それはすなわち金メダルを獲れ！というプレッシャーそのものだった。泰山のようにのしかかる重く強大なプレッシャー。これを「心地良き緊張感に切り換えよ!!」と私はいとも簡単に選手達に命令してしまった。自分に自信を持って！自分の力を信じる！とにかく全力で堂々と、自分に自信を持って戦えば必ず金メダルは獲れる！お前達はそのレベルに十分達しているのだ!!と選手全員に、叱咤激励というよりは、もうやたらに怒鳴りまくっていた。一人一人の選手が一試合終るご

とに私はすぐ駆け寄り、今、終わったばかりの試合のアドバイスを与えた。果たしてそれが効果があったのかどうかは解らないが、選手達には大きな確信になった、と私は勝手に信じている。



レスリングの全試合を終わってみると、結果は我が日本レスリング陣はついに金メダル4個、銅メダル2個、合計6個のメダルを獲得していた。日本選手団の金メダル獲得総数7個の内、実に4個はレスリングによる金メダルである。しかし我々は決してこれに驕ってはならない。勝利は夢と目標を創造する。勝利は歓喜と感動をもたらす。勝利は勇気と力を育む。勝利は明るく、前向きだ。勝利の価値はととも大きく素晴らしい。

帰国後、銀座通りでメダリスト全員によるオープンバス・パレードをさせてもらった。50万人という方々が集まって下さった。勝利の喜びを共有してもらって本当に嬉しかった。「勝利追求する若者達よ、勝利するためには絶対に最後まで諦めてはならない。」